



令和元年10月26日の東京湾再生官民連携フォーラム第7回通常総会における

来生議長あいさつ

開会の挨拶を東京湾再生官民連携フォーラム議長 放送大学学長 来生新が行った。

フォーラム発足以来6年が経過し、今年は第7回の総会となる。三弾ロケットに例えて、第二弾ロケットを切り離して、第三段目に移るかというタイミングのところに来ている。この6年間着実な活動を継続することができたと、自己評価している。発足当初、5つのプロジェクトチームであったものが、現在9つのプロジェクトチームに増加し活動している。

また政策提案の実施、本日同時並行開催する東京湾大感謝祭の広報活動を2本の柱としてスタートしてきたが、CSR-NPO 未来交流会など、新たな活動も増えてきている。

順調な活動をおこなってきたが、6年経過し、将来にわたり安定したサステイナブルな活動をいかにおこなうか、フォーラム自身の在り方についても反省し、改めていくべき点、課題もあると感じている。これから第三弾ロケット、サステイナブルな東京湾の再生を目指して、組織全体新たな気持ちをもって、将来に向けての議論を行っていかねばいけないと感じている。なお一層のみなさまの活発なご意見、ご支援をお願いする。

以上

(本議長挨拶は、令和元年10月26日(土)第7回通常総会フォーラム議長挨拶を事務局がまとめたものです。)